

おお
大おとことおもちゃさん

サーバー作 那須辰造訳



◆ 世界の幼年どうわ・10

大おとことおもちゃやさん

ジェームズ＝グローバー＝サーパー作・那須辰造訳

N. D. C. 933 偕成社 昭和45年 p. 126 22cm.

Thurber, James Grover: GREAT QUILLLOW

発行 昭和45年9月30日 ©

訳者 那 須 辰 造

発行者 今 村 広

印刷者 草 刈 龍 平

発行所 株式会社 ^{かい} 偕 ^{せい} 成 ^{しや} 社

東京都新宿区市ヶ谷砂土原町3の5

振替 東京 1352 番

本文印刷 中央精版印刷株式会社

多色印刷 小宮山印刷株式会社

製 本 文勇堂製本工業株式会社

定 価 480 円

◇落丁本・乱丁本はおとりかえます。

8397-409100-0904



検印省略



お お

大おとことおもちゃさん

ジェームズ＝サーバー作

那 須 辰 造 訳

柏 村 由 利 子 絵

世界の幼年どうわ

GREAT QUILLLOW

by James Grover Thurber

Original English language edition published
by Harcourt, Brace & World, Inc., New York, 1944.



* はじめに

このおはなしにでてくる、大^{おお}おとこは、ものすごいんですよ。

のっし、のっしとあるくと、とおくのみず^{みず}うみの、水^{みづ}が、ざわざわとゆれるんです。こわいですね、こんな大^{おお}おとこがやってきたら、そして、らんぼうをはじめたら、わたしたちは、ふみつぶされてしまうかもしれないよ。

そんなときには、さあ、どうしたらいいでしょう。

だけど、だいじょうぶです。いいけいりや
くがあるんです。まあ、よんでください。

このおはなしを。

きっと、みなさんは、ぷっと、ふきだし
てしまいますよ。

なす たつぞう



もくじ

1	大 ^{おお} おとこのハンダー……………	10
2	みどりのたにの ちい 小さな町……………	14
3	おもちやのキロー……………	18
4	大 ^{おお} おとこがやってきました……………	23
5	大 ^{おお} おとこのたのみ……………	25
6	「いいけいりやくがありませんか」……………	33
7	お日 ^ひ さまが目をさしました……………	42
8	キローはにこにこしていました……………	52
9	おかしなびょうきのおはなし……………	64



10 キローのけいりやく……73

11 「ウォドリ、ウォドリ、ウォドリ」……79

12 えんとつがまっくろ……94

13 「青い^{あお}にんげんがでたあ」……103

14 さて、どうなったでしょうか……119

「大^{おお}おとことおもちゃやさん」について(解説^{かいせつ})……124



筆者紹介

原作者 サーバー 1894年生まれのアメリカの作家。1961年没。作品は、空想、諷刺に富み、「たくさんのお月さま」「13の時計」等多くの児童書あり。

訳者 那須辰造^{なす たつぞう} 1904年、和歌山県生まれ、東京大学仏文科卒。実践女子大学教授。フランスを主に外国児童書の訳書多数。創作に「緑の十字架」がある。

画家 柏村由利子^{かしわむらみり こ} 1930年、東京生まれ。東京美術学校（現芸大）油絵科卒。毎年、個展をひらくかたわら、子供の絵の指導にあたっている。





「^{おお}大^めおとこが目をさまさないうちに、いそげ！」^{まち}町^{ひと}の人たちは、えんとつのペンキぬりにいっしょうけんめいです。

大^おおとことおもちゃやさん

サ
ー
バ
ー
作
那須辰造 訳



1 大^{おお}おとこのハンダー

むかし、むかし、ある国^{くに}に、それはそれは大^{おお}きな人^{ひと}がすんでいました。せいのたかいこと、からだのおもいことといったら、ものすごいばかり。この大^{おお}おとこが、のっしのっしとあるくと、とおくのみずうみで、水^{みず}が、ざわざわゆれたほですよ。

この大^{おお}おとこのなまえは、ハンダーといいました。

大^{おお}おとこのハンダーは、あさのごはんのときにはね、ひつじを三とうと、大^{おお}きな大^{おお}きなパイと、でっかいチョコを、むしゃむしゃぺろりと、たいらげました。

そのパイといったら、りんごを千^{せん}こもつかって、こしらえたものですよ。それから、チョコはね、でっかいこと、でっかいこと、じてんしゃのわくらしいもありました。

ハンダーがうちからでていくときには、げんかんのとにかぎをかけました。しんちゅうでできたかぎでしたが、そのばかでっかくて、おもいこと、おもいこと、おはなしになりません。それをもちあげるのには、ふうの人だと、六人^{にん}がかりでしたよ。

それから、このい



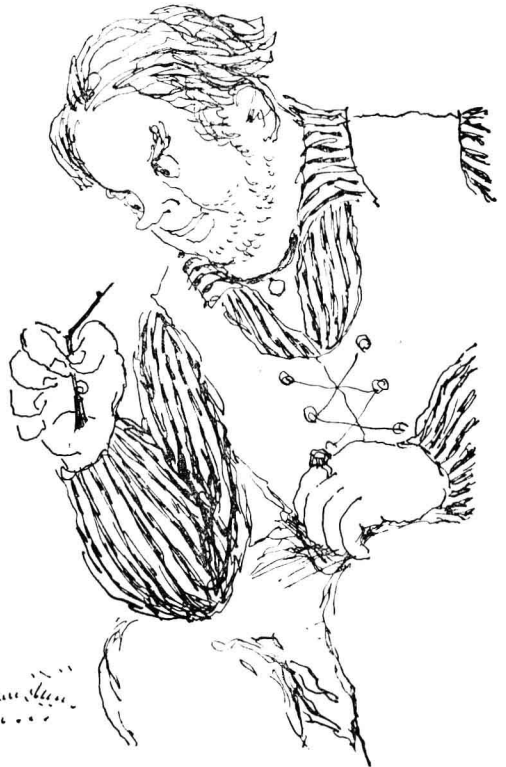
えでつかっている、ろうそくだって、四人^{にん}がかりで、やっとこさっとこ、もちあげることできたくらいです。

いつも、このハンダーは、どこかの町^{まち}や村^{むら}へでかけて、ひどいらんぼうをして

いました。その町^{まち}や村^{むら}のありったけの、ひつじや、りんごや、チョコや、けがわや、おりものや、さいもくや、ろうそくや、しんちゅうを、とりあげてしまうのです。

そして、それから、またべつの町^{まち}や村^{むら}へいって、らんぼうをするのでした。

これまでハンダーは、ずいぶんほうぼうの町^{まち}や村^{むら}で、



ひどいことをやりました。

けれど、どこの町にも村にも、この大おとこをやっつけるような、つよい人はいないのです。

なにしろ、このハンダーといったら、どんなにおそろしいてっぽうだつて、へいちゃらなんですからね。大かぜがふいてるみたいなおえで、ごうごう、げらげら、わらいながら、てっぽうなんか、おやゆびとひとさしゆびで、ひねりつぶしてしまうのです。

ほんとうにこまった、大おとこですよ。

じょうずにハンダーをだまして、らんぼうをやめさせれば、いちばんいいのですけどね、そういううちえのある人は、どこの町にも村にもいないのです。

うまくわなをかけてもね、ハンダーはわらいながら、でっかいくつのさきで、ふみつぶしてしまいます。そのときのわらいごえといったら、すごいのです。まるで、火山がばくはつするみたいなんですよ。

2 みどりのたにの小さな町

ある日、大おとこのハンダーは、とおいとおい
ところへ、のっしのっしと、あるいていきました。
そこには、みどりのたにがあって、小さな町が
ありました。そのたには、いわの山に、がっちり
とりかこまれていました。町では、どのいえも、
どのいえも、石とざいもくで、がっちりつくって
ありました。それでも、大おとこがちかづいてく
ると、ぐらぐらとゆれたのですよ。
この町のいえは、みな、小さな二かいだてでし
た。みちはせまくて、まるい石がしきつめてあり
ました。



町まちでくらしている人ひとは、そうおおぜいではありません。おとこの人ひとが百人ひやくにんぐらい、おんなの人ひとが百人ひやくにんぐらい、子どもが百人ひやくにんぐらいでした。

いつも、火かようびのばんの七時じには、町まちの議員ぎいんさんたちがあつまって、いろいろなそうだんをしました。議員ぎいんさんたちは、ぜんぶで十人にんでした。

議員ぎいんさんになっていのは、三日月みかづきどおりにおみせをだしている人ひとたちや、しょくにんさんたちでした。それは、三日月みかづきどおりのおもだった人ひとばかりです。

三日月みかづきどおりというのは、ひがしのほうと、にしのほうへのびてい

